



AIとも共生する社会。 対話力が未来をつくる。

2056年には1億人を下回り、2070年には8700万人になると予測される日本の将来推計人口。超高齢社会。労働力の不足……では、どうしますか？これらの「正解のない問題」を前に、社会の仕組みそのものを大きく変える必要がある中、今、AIの活用についても問われています。

生成系AIの急速な普及。世界各国でその使い方において様々な見解がある中、何が正解かを判断するのは難しい。それなのに、「生成系AIをどのように扱うことが正しいのか」と、ここでも「正解探し」が行われているのだとしたら。それこそ古い価値観の延長線上で、生成系AIに即時に正解を求めてしまうような縛られ方をしていませんか？

今春、国内の大学が相次いで、生成系AIの利用を巡り、論文やレポート作成などについての方針を発表しました。そして5月、主要7カ国首脳会議（G7サミット）では、生成系AIの活用方法について検討する「広島AIプロセス」が始動し、年内に結論を出すことで合意しました。AIの持つ可能性と課題や懸念。AIにすぎること損なわれるもの——これらの間で、日本が、世界が揺れ動く中、「答え」を待たずして、私たちの身近なところではもう、AIと人間の関係は動き始めています。

では、人がAIと“共生”し、豊かな道を歩むために大切なことは何か。感じる。考える。問いを持つ。当たり前を疑う。判断し、決断し、意志を持って行動する……これらは、人間だからできること。それぞれ感情や意志を持つ人と人が集い、深い議論や対話を重ねること、失敗を恐れず糧として、チャレンジする。「正解探し」をするのではなく、「自分たちの答え」をつくる。一人では困難なことも、仲間とつながることで実現できる。——AIをも仲間にする。

そんな「人間ならではのチカラ」を育ていく学びとは。例えば日能研のテスト。「測る」を超えて、様々な「対話」が広がります。思考に加えて感情にもアプローチする問いかけにより、子どもが自分の答えをつくる「作問者との対話」。『仲間の記述例』との出あいでも生まれる「仲間との対話」。○×のついていない子どもの答案が手元にあるから始まる「親子の対話」。そして、テストの後のふり返りで生まれる「自分との対話」。〈対話〉を刺激にして「次はこうしてみよう」と新たなチャレンジが見つかります。「測るだけ」で終わるテストなんてもう古い。知識や技術の量では、AIには太刀打ちできない。「テストから始まる学び」を子どもたちに、社会に。

AIとも共生する社会。「正解探し」から脱却し、対話による学びのプロセスで得られるものを大切にしながら、「自分の答え」「自分たちの答え」をつくる。それこそが「人間ならではのチカラ」。

正解のない世界で、対話力が未来をつくる。

日能研経由、私学へ。——そして未来へ。

日能研全国テスト

参加
無料

6月
18日

小3

小4

小5

6月
25日

小2

[科目] 2科目(国語・算数) [時間] 1回目 9:00集合 / 2回目 13:00集合 [会場] お近くの日能研各校

保護者会同開催

◆保護者会は、テストをお申し込みの保護者のみなさまにご参加をお願いしています。 ※一部、実施要項が異なる場合があります。詳しくは、日能研公式ウェブサイトまで。

テストの詳細・お申し込みは
日能研公式ウェブサイトまで。

日能研 検索

www.nichinoken.co.jp

